

資料提供者等一覽

記念誌編集協力者
 ご芳名
 (順不同・敬称略)

菊菊菊菊菊角横石齊菊高押嵯及京吉佐越千小城浅高細
 池地地地地地田山川籐地野切峨川野田藤田葉野倉橋川
 恩成孝賢宇紘紀和義喜和美清聡正伊牧貞
 恵朋子司正子一昭博光子郁子佳淳敬亮子和豫康子子徹

佐荒後絹及及菊加伊伊綾阿櫻鈴平朝倉千石星神小小小佐佐佐佐高高高吉
 々々井藤川川川池藤藤勢部部井木野倉成田川山野寺沢藤藤藤木野橋橋田
 一俊清文拓幸和英俊園庸達宏次義珠陸正昌牧次嗣麻子優剛早瑞
 純也孝仁郎隆工則俊彦子豊司壯男哉淳郎孝枝美明理記人雄花浩織考彦

鈴八田浅森小佐佐高工金及吉藤宮小高佐小川久田只千千菅菅小小小斎佐
 木重中沼口野藤々々橋藤澤川田波館幡橋藤寺又松中野葉田原原野寺原藤藤
 安隆スミ通英省早裕克洋壽忠瑛秀武敬康康和初礼幸健敬
 隆勝明新次子雅也光治苗奨郎香喜夫子昭夫治豊男夫男善代博子男操一太

カ
メ
ラ
の
ち
ば
 菅佐及佐北村佐及村鳥菅佐綾今相富阿及及
 原々川藤條上々川上海原藤野野原田部川川
 則幹賢愁栄正清康恭孝輝讓康卓禮
 勝修男一子一洋昭文司聡守也二二忠彰美助

編集後記

平成二〇年一月一八日に、岩手県立水沢高等学校創立百周年記念事業協賛会が発足し、同時に実行委員会の一つとして記念誌編集専門委員会が正式に立ち上げられました。本校ではこれまでの周年記念誌として、六〇年、八〇年、九〇年と過去三冊を刊行して参りました。学校通史はこれらの既刊の記念誌の記述を基本として、その後の内容を加味することとし、その他年表などの諸資料も準じた形の方針で編集することといたしました。特に、この百年を記念する企画として、現役生の励みとするべく「百人の先輩」と銘打って、各界でご活躍の卒業生の声を掲載いたしました。実際には百名には至りませんでした。九〇名ほどの卒業生の方々からご協力をいただき、その先輩各位の姿が後輩の大きな刺激となり、今後ますますの水高の発展に繋がってくれるものと信じております。

この度の記念誌では、新規の座談会を二回開催し収録いたしました。一回は女学校時代の方々。もう一回は昭和から平成への移行期の方々です。その他、過去の記念誌の座談会の記事もすべて掲載いたしました。その時代その時代の学校生活を偲び、回顧するよすがとしていただけると幸いです。

この度の編集過程では、多くの方々からの資料提供や話題の提供を賜りました。その中には匿名での母校への協力という形で、貴重な写真や文集、過去の新聞などの諸資料を多数頂戴いたしました。早速通史部分に活用させていただきますもの、今回の記念誌には掲載できなかったものの、今後の水高の歴史資料として貴重に保管すべきものなど、皆様の母校に寄せる思いが編集過程の中でしみじみと感じられました。ご協力をいただいた方々への感謝の念を誌面を借りて述べる次第です。

また本誌の資料や記述で、不備な点や誤り、不適切な掲載が多々あることが心配されます。編集作業には万全を期したつもりでおりますが、思わぬ失敗があるかと存じます。その際はどうかご容赦いただきますとともに、今後、水高の歴史を綴っていく際より正しい形になるよう、お気づき

の点はどうぞ同窓会事務局までお知らせいただきますよう改めてお願い申し上げます。

末筆となりますが、本誌編纂にあたり、多くの関係の方々からのご支援とご協力で改めまして感謝申し上げますとともに、記念誌編集にご指導ご助言をいただきました(有)金ヶ崎印刷に御礼を申し上げます。

「水高百周年」を慶びて折句にて二首

水高の 高風仰ぎ 百代の 周行崇め年を改む

水がごと高みゆ奔り百千代に周く流る年重ねつつ

注「ゆ」|| 起点を示す上代の格助詞

記念誌編集委員長	鈴木 慧 (同窓会副会長)
編集委員	佐藤 秀 昭 (同窓会)
編集委員	安彦 公 一 (同窓会)
編集委員	山田 悟 史 (同窓会)
編集委員	大内 和 良 (PTA)
編集委員	猪岡 真 子 (PTA)
編集委員	大堀 徹 (PTA)
編集委員	鹿野 聡・松戸 靖・吉田新一・大内恵子 (職員)
校内委員	高橋匡之・八重樫久美子・関亜砂子・高木香澄 千葉昌子

岩手県立水沢高等学校創立百周年記念誌

平成二十三年二月二十五日発行

発行 岩手県立水沢高等学校

〒〇三三〇八六四 奥州市水沢区籠ヶ馬場五の一

TEL 〇一九七―二四―三二五一・三一五一

編集 水沢高等学校記念誌編集委員会

印刷 (有)金ヶ崎印刷

TEL 〇一九七―四四―五四八五